

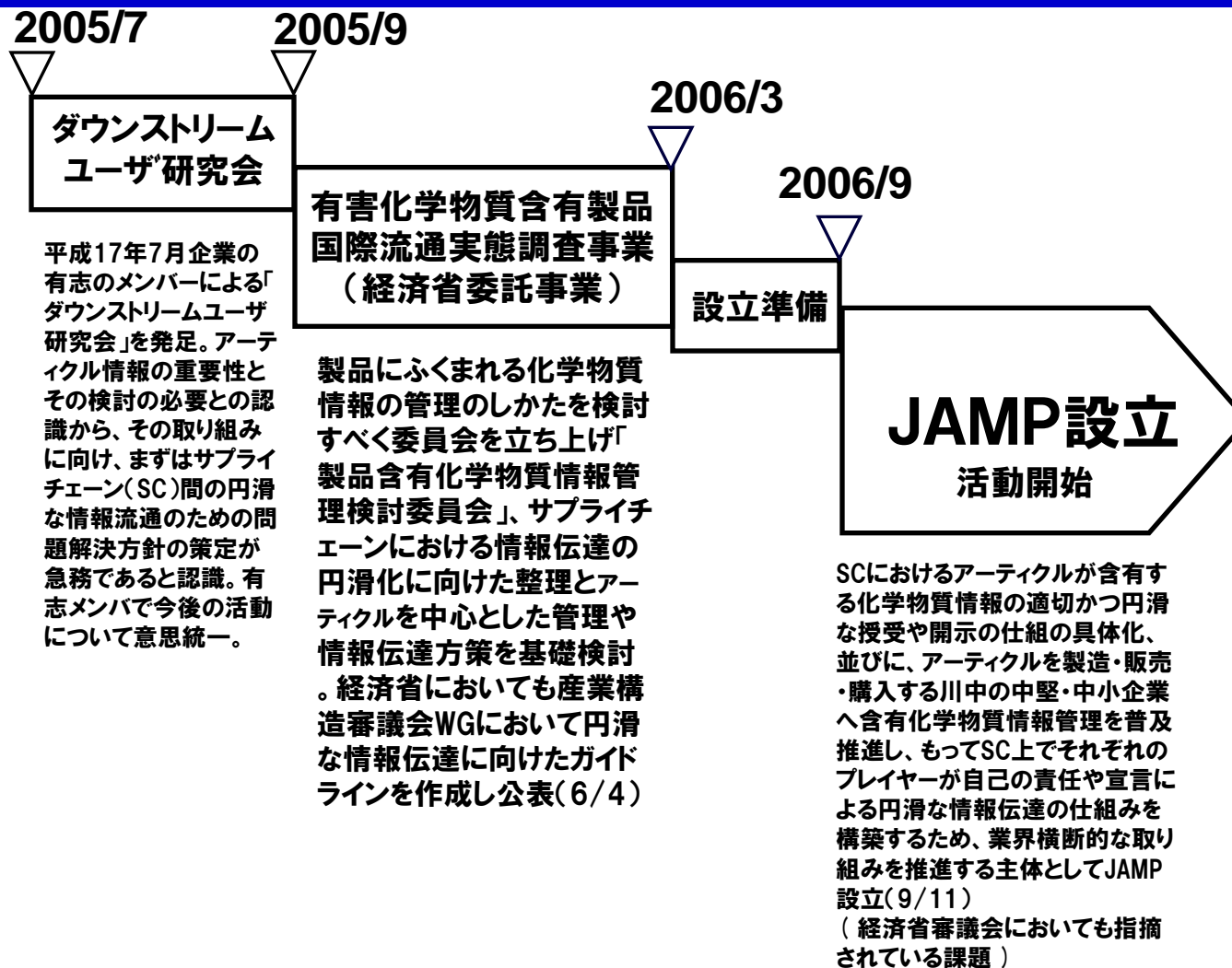
# JAMP 御説明資料

- 1.JAMP発足の経緯
- 2.情報流通の課題(川下から聞いていくのでは川中が混乱)
- 3.JAMPが目指すスキーム(川上から川下に情報を流す)
- 4.JAMPツール構成(様式、管理ガイド、情報基盤)
- 5.JAMP会員構成と数
- 6.JAMP普及実績
- 7.JAMP海外における取り組み

2013年5月16日

アーティクルマネジメント推進協議会(JAMP)

# 1. JAMP発足の経緯



現在

- JAMP運営
  - ・ルール作り
  - ・組織づくり
- JAMP普及
  - ① ガイドライン
  - ② JAMP共通様式  
MSDSplus、AIS
  - ③ 情報基盤  
JAMP-IT

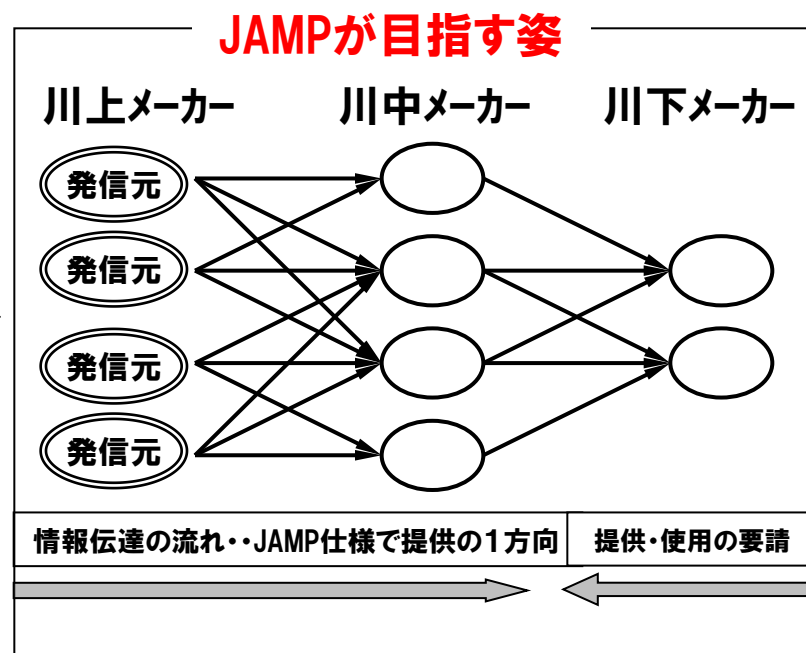
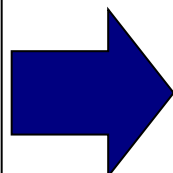
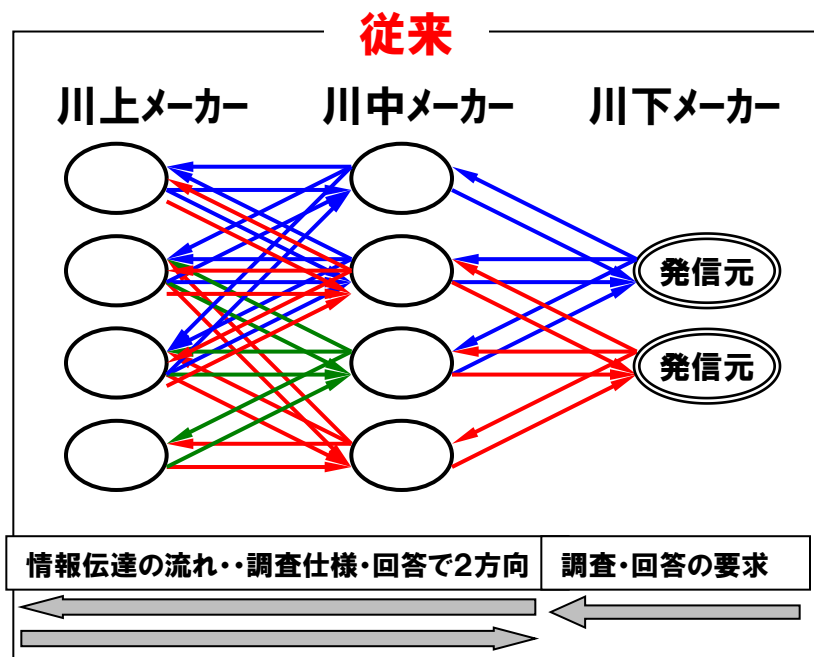


## 2. 情報流通の課題(川下から聞いていくのでは川中が混乱)

調査物質が6つであるRoHSの時代から物質が増えるREACHの時代になれば、今までのやり方では通用しないのではないか？

という産業界の反省が生まれ、発想を転換して、情報は適正に上流から下流へ提供される仕組みをつくらうという議論が生じ、

**アーティクルマネージメント推進協議会(JAMP)**が誕生した。



川下から川上へ異なるものを錯綜しながら伝える

川上から川下へ同じものを一方向に伝える

### 3. JAMPが目指すスキーム(川上から川下に情報を流す)

#### ミッション

サプライチェーン(SC)における製品含有化学物質の適切な管理及び関連する情報の円滑な開示を促進し、もって産業界の環境への積極的な対応による「ものづくり」基盤の強化を通じた、国際的な競争力確保とアジア諸国を含めた製品含有化学物質の適切な管理の実現に寄与すること。

#### 国際動向 化学物質管理

##### ●各国仕様⇒グローバルな標準仕様

各国仕様の化学物質規制は、「もの(製品)づくり」がグローバルに展開される中、ものに含まれる化学物質の影響も世界的となるので、国際的に標準化した仕組みが必要。

##### ●ハザード管理⇒リスク管理

化学物質の有害性だけでなく、用途も併せての評価が必要。

##### ●情報伝達：上流から下流へ一方向⇒上流、下流双方向

上流からの有害性の情報伝達だけでなく、下流からの用途情報の伝達も必要で、サプライチェーンのそれぞれのメンバーが互いに積極的に連携・協力する仕組みが必要。

2006 SAICM (Strategic Approach to International Chemical Management)

2020年までの目標：化学物質による人健康と環境に対する悪影響を最小化

## 4. JAMP ツール構成

# 製品含有化学物質情報管理と伝達のための 共通化ツール(無償提供※)

### マネジメント ガイドライン

- 化学物質情報管理ルール
- 管理方針と管理項目
- 最小化と共通化

共通ルールで  
情報精度の確保

### 情報伝達様式

### JAMP MSDSplus/AIS

- 情報伝達様式
- 管理対象物質

共通様式で情報伝達の  
手間削減

※JEITA/ECセンターの次世代EC標準  
ECALGA標準(スキーマ等)準拠

### 情報流通基盤

### JAMP-IT

- 機密情報を保護した  
情報流通基盤

情報インフラで多量  
データ流通の効率化

※ UN/CEFACTとOASISによる  
ebMS (ebXML Message Service) 最  
新版を採用

**JIS**

JISZ7201

製品含有化学物質管理



交通ルール



車両



高速道路

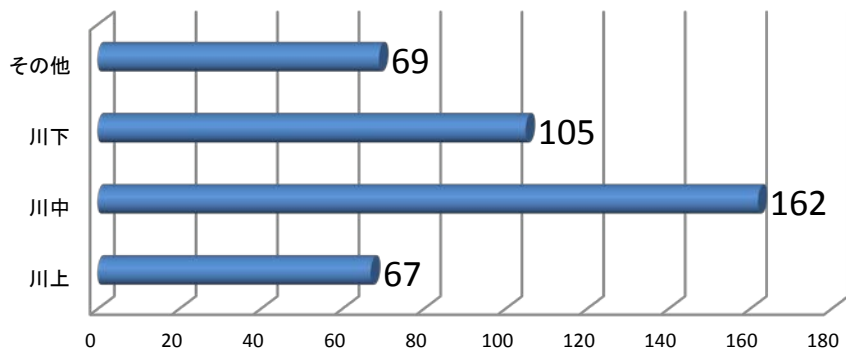
\*) JAMP MSDSplus: 化学製品(単一品や混合品)のための情報伝達様式  
JAMP AIS (Article Information Sheet): 成形品のための情報伝達様式

※中小企業以外の  
JAMP-IT利用は有償 5

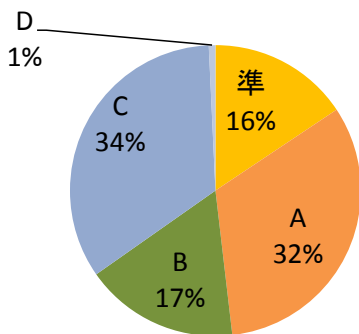
# 5. JAMP会員構成と数

会員数 **403** (2013年5月現在)

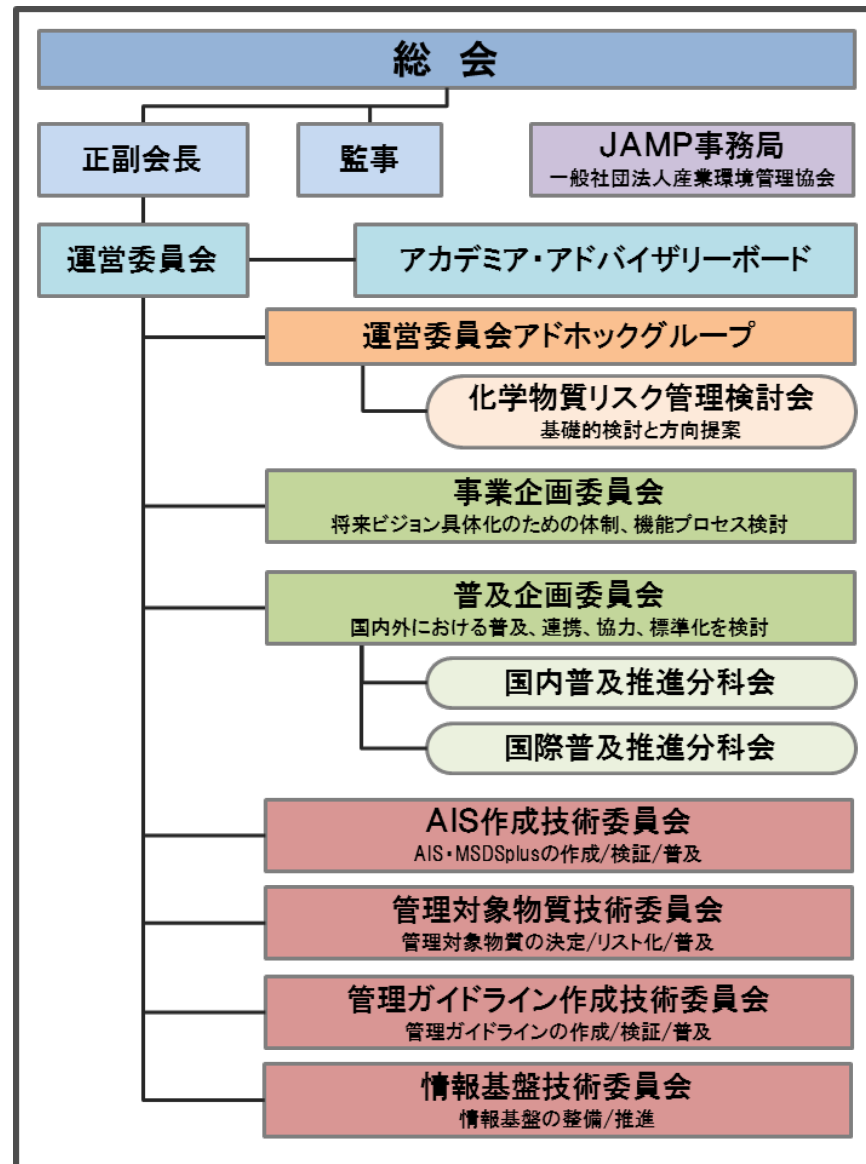
JAMP会員分布\_1 (商流区分)



JAMP会員分布\_2 (企業規模)



会員区分	従業員数
準	1~100人未満
A	1~400人未満
B	400以上~1000人未満
C	1000人以上
D	業界団体



※2013年度計画案

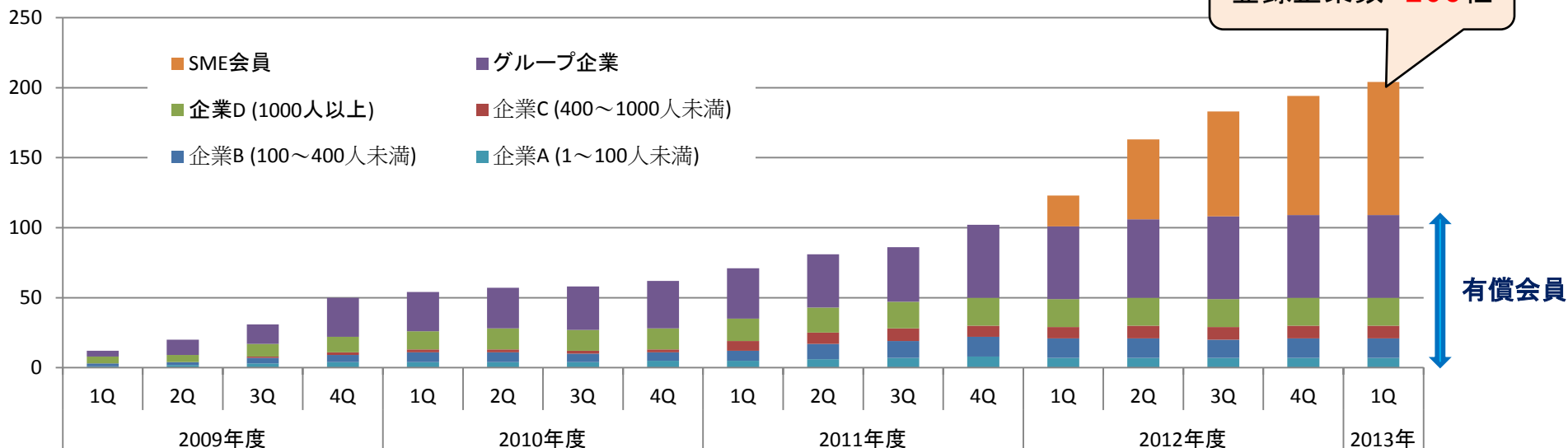
## 6. JAMP 普及実績

顧客からJAMP会員への依頼 (モニタリング項目)	2011年3月 実績	2012年3月 実績	2013年3月 実績
JAMP/AIS	40%	51%	62%
JAMP/MSDSplus	32%	30%	32%

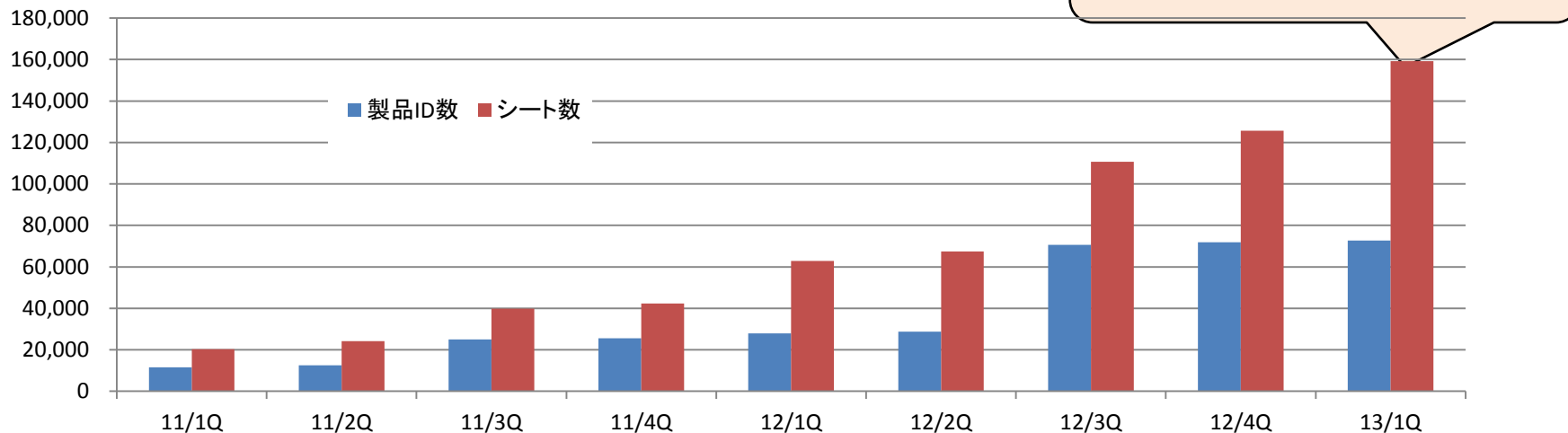
# 参考：JAMP-GP会員 & 登録データ量の推移

2013年5月現在

## 会員数推移



## データ数推移





# 7. JAMP 海外における取り組み

## 【欧州】

・欧州化学品庁 (ECHA) へJBCEと協力して「REACH規制遵守に有用な仕組みとして」JAMPを紹介。(2010年～)  
・エンバイロン社 (BomCheck 主管者) が JAMP に入会。JAMP 管理対象物質検索用リストの利用および JAMP AIS の認定ツールベンダーとしての契約検討中

## 【韓国】

・政府外郭団体 (BSCGER) と MOU を締結

## 【台湾】

・政府外郭団体 (SAHTECH) と MOU を締結

## 【北米】

NIST と JAMP が連携することで 2009 年 8 月合意 (JAMP AIS と IPC1752 との相互運用)

## 【中国】

・SGS - CSTC と講座開催、講師認定の協業のための MOU 締結  
・埼玉大学 / 王先生のご指導による普及対応を検討中

## 【APEC】

APEC CD (化学対話) に参加して JAMP の紹介、意見交換を継続 (2010 年～)

## 【ASEAN】

- ① タイ MTEC と翻訳に関する MOU を締結
- ② マレーシア CICM と基本 MOU を 2010 年 2 月締結。さらに関係強化を目指す
- ③ METI 事業により、タイ、マレーシア、インドネシアにおいて JAMP 実証事業、実務者、指導者教育を実施 (2008 年～)
- ④ AMEICC などの場を活用して JAMP の紹介、意見交換を継続 (2008 年～)

Copyright (C) 2007 TSUKUI system